

生物多様性への取り組み

生物多様性についての基本的な考え方

当社では、人間社会が生態系から恩恵を受ける一方で、大きな負荷を掛けていることを認識し、生物多様性の保全に貢献する取り組みを推進しています。

日光杉並木オーナー制度

日光杉並木は、およそ370年前に植えられた杉の巨木が連なる壮大な街道です。三つの街道のうちの一つである例幣使街道が足利市を通っていることもあり、当社とも深い関わりがあります。当社は、近年の周辺環境の悪化から杉並木を保護するための「日光杉並木オーナー制度」に賛同し、保全に協力しています。



日光杉並木

水資源の保全

当社では、毎月排水の自主測定を実施し、使用後の排水を環境影響のない状態で河川へ排出しています。なお、足利第二工場、滋賀第一工場、中国昆山工場では、工業用水の一部を循環使用しています。

「水質事故被害拡大防止訓練」へ参加

当社では滋賀県ならびに湖南・甲賀環境協会などが万が一の事故発生を想定して行っている「水質事故被害拡大防止訓練」に積極的に参加し、琵琶湖を含む周辺の環境保全の重要性を再認識しています。2015年9月29日に行われた訓練は、協会会員・県・市環境行政など総勢147人が参加する、大規模なものとなりました。



滋賀県でのオイルフェンスによる油のせき止め訓練

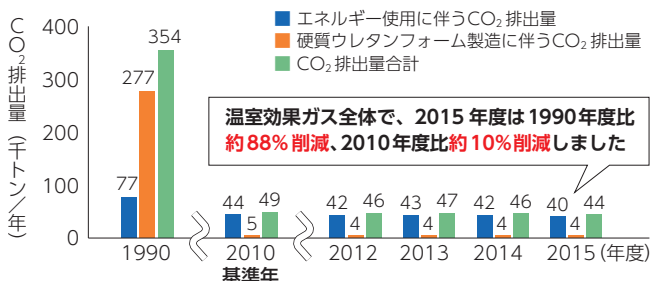
地球温暖化対策

温室効果ガス排出量推移

当社が排出する温室効果ガスとしては、エネルギー使用（燃料、電気など）に伴う二酸化炭素排出と、硬質ウレタンフォーム製造に伴う二酸化炭素排出（フロン系をCO₂に換算したもの）が主体です。

当社は現在までに継続して、積極的な環境設備投資によるエネルギー使用量の削減と、ノンフロン化への設備切り替えを進めました。この結果、温室効果ガス排出量は前年度比約4%減少し、1990年度比約88%（2010年度比約10%）削減することができ、目標を達成しました。今後は、さらなる温室効果ガス排出量の削減を推進していきます。

●温室効果ガス（CO₂）排出量の年度別推移



※エネルギー使用に伴うCO₂排出量は、事業活動に関わるエネルギー（燃料、電気など）に伴い発生するCO₂です。またCO₂排出量は、地球温暖化対策推進法（改正温対法：2006年4月施行）に基づく算出方法・排出係数一覧から算出したものです。なお東日本大震災以降、原発停止により天然ガス（火力発電）使用が増え、電気事業者の排出係数が大幅に大きくなったことから、2010年度以降は2010年度の排出係数で算出しています

※硬質ウレタンフォーム製造に伴うCO₂排出量は、原液製造時および発泡時に漏洩するフロン系をCO₂換算したものです。またフロン系の地球温暖化係数（CO₂換算係数）は、IPCCの3次レポートから準用し、自主的に算出したものです

【対象範囲】足利第一工場／足利第二工場／滋賀第一工場／滋賀第二工場／美根工場／九州工場／アキレスマリン（株）／アキレスウエルダー（株）

物流の環境保全活動

二酸化炭素削減活動の取り組み

2015年度の取り組みとして、モーダルシフトの拡大展開、および積載率・大型車利用率の向上を推進しました。また輸送の効率化とコスト低減を目的として、滋賀工場と連携して関東⇄関西の輸送車輛の有効活用を推進し、継続実施中です。



鉄道輸送用のコンテナへの積み込み

二酸化炭素排出量実績

上記の取り組みの結果、2015年度は、前年度に対し輸送トンキロ^{※1}が1.1%減少したこと、およびモーダルシフト率^{※2}が向上したことなどにより、CO₂排出量^{※3}が3.1%減となりました。

※1 輸送トンキロ＝貨物重量「トン」×輸送距離「キロメートル」

※2 貨物輸送をトラックから鉄道や船に変えること。一度に大量の貨物を輸送することができ、CO₂排出量を抑える効果が期待されています

※3 CO₂排出量（t-CO₂）＝エネルギー使用量（GJ）×排出係数（経済産業省より）

●二酸化炭素排出量・モーダルシフト率

項目(単位)	2014年度	2015年度	前年度比(差)
輸送トンキロ (千トンキロ)	74,421	73,570	98.9%
発生するCO ₂ の 排出量 (t-CO ₂)	10,161	9,847	96.9%
モーダルシフト率	15.3%	16.8%	1.5ポイント向上